

脳病態制御分野 セミナー

日時：平成30年7月30日 14時30頃～

会場：生体調節研 1F 会議室



「脳神経回路の修復における臓器間連関の意義」

国立精神・神経医療研究センター 神経研究所
神経薬理研究部 部長

村松里衣子先生

脳や脊髄の疾患による後遺症を回復させるには、傷害による細胞死を免れた神経細胞による神経回路の再建が必要です。末梢神経系と比べると、脳の神経回路は再建しにくいと考えられていますが、近年の研究において、わずかながら傷ついた脳の神経回路は自然に修復し、症状も自然に回復することがわかってきました。また、脳の神経回路の修復は、脳の内部に備わる分子の役割を解明する研究が主流ですが、最近の研究で、脳の外部の環境も脳神経回路の修復に影響を及ぼすこともわかってきました。本セミナーでは、脳の神経回路の修復における、脳の外部環境の重要性について、最近の知見をご紹介します。

Kuroda M, Muramatsu R, Maedera N, Koyama Y, Hamaguchi M, Fujimura H, Yoshida M, Konishi M, Itoh N, Mochizuki H, Yamashita T.

Peripherally derived FGF21 promotes remyelination in the central nervous system.
J Clin Invest. 2017; 127(9):3496-3509.

Muramatsu R, Takahashi C, Miyake S, Fujimura H, Mochizuki H, Yamashita T.

Angiogenesis induced by CNS inflammation promotes neuronal remodeling through vessel-derived prostacyclin.

Nature Medicine. 2012; 18(11):1658-64

Muramatsu R, Kubo T, Mori M, Nakamura Y, Fujita Y, Akutsu T, Okuno T, Taniguchi J, Kumanogoh A, Yoshida M, Mochizuki H, Kuwabara S, Yamashita T.

RGMA modulates T cell responses and is involved in autoimmune encephalomyelitis.

Nature Medicine. 2011; 17(4):488-94.

村松先生は、多発性硬化症などの神経疾患に対して、Translation まで見据えた基礎研究を推進できる新進気鋭の若手研究者です。若干37歳で国立精神神経センターの部長職に就任された女性研究者であり、若手研究者がロールモデルとして学ぶことも非常に多いと思いますので、分野違いであっても参加されることを歓迎します。

担当：脳病態制御分野 林（高木）朗子（8850）